

あなたの“はあと”が地域のチカラに変わる情報マガジン

♡ Volunteer ホランティア

特別号
2015

Take Free

まち
千代田の魅力は
人がつくる。



スペシャルインタビュー!!

山崎亮さん(コミュニティデザイナー)

ボランティア座談会

図解!データで見る千代田区とボランティア

ボランティアの力/ボラセン職員の思い



♡ ちよだボランティアセンター

楽しさなくして参加なし 参加なくして未来なし

コミュニティデザイナー 山崎 亮さん
インタビューアー 千代田区社会福祉協議会 梅澤 稔



コミュニティデザイナーの山崎亮さん。学生時代に阪神・淡路大震災を経験。震災直後に現地へ入り、全壊、半壊などの建物調査を行った。瓦礫と化した神戸のまちで、人と人が励まし合い、支え合う姿を見て、コミュニティの力強さを感じたと言う。それがコミュニティデザイナーの原点。デザインは社会の課題を解決するためのツールである。地域の人たちが解決するための場をつくるのがコミュニティデザイナーの仕事である。そんな山崎亮さんに、コミュニティにかかわること、ボランティア活動についてインタビューをした。

阪神・淡路大震災で コミュニティの力強さを感じた

コミュニティデザイナーとして仕事をするきっかけは1995年の阪神・淡路大震災。関西の大学で都市計画や設計を学んでいました。たくさんの方が倒れて人が下敷きになって多くの人が亡くなっているという光景を見たときに、デザイナーとしてどうすればいいのを考えました。被災地をまわっていると、河原で多くの被災者が互いに励まし合っていました。あの時、実は僕自身の心が相当救われました。とにかく地図に全壊、半壊の色を塗って歩いていたのですが、全部赤色で全壊でした。そんな中、励まし合っているその人たちの会話に救われたのです。ほっとしたというか、いいなあと思いました。災害が起きたときに人のつながりが強くなるのではなく、普段から人と人とのつながりを強くすることはできないかと考えたのが今の仕事のきっかけだと思います。

建てる人と使う人は別

市役所を建ててください、美術館を建ててくださいと言う場合、お金出す人と使う人は別々です。例えば教育委員会が美術館を建てたいと言っても、その人たちは結局美術品を見に来る人たちと別の人です。僕が勤めた設計事務所では、将来この美術館を使うであろう人たちに集まってもらい、どんな美術館だったら使いやすいかという話し合いをかさねました。ワークショップが終わって、あとはいいデザインに反映しますという段階になると、みんなバラバラになってしまうので、それがもったいないと思ったのです。何回もワークショップをすると、いい感じで交流もしているし、みんな仲よしくなっています。このチームが、設計が終わって完成した建物に関わるボランティアになったら、もっと良くなるんじゃないかなという気がしてきました。その人たちが活躍していくところまでサポートすれば、本当にいい仲間が出来上がります。

す。彼らは出来上がった空間で生き生きと活動を始めました。

ディズニーランドの キャストと一緒に

ディズニーランドのしくみを参考にパークマネジメントについて学ばせてもらいました。ただ普通の県立公園では、歌って踊ってくれるキャストに給料を払えない。お金がなくても歌って踊ってくれるキャストを探そうと思ったときに、市民活動というのがとても大きく見えてきました。そこで活動する人たちは楽しいと思ったから参加したのです。それが重要な点だと知りました。地域で困っている人たちと支える人たちをどのようにつなげるかというところにアイデアが必要になります。

専門家と住民のズレを 解消するには

楽しさなくして参加なしです。そして、参加なくして未来なしです。地域には住民の参加がないと、



地域の未来は多分ないだろうと思います。僕らは参加型をどういうふうに進めていくかを考えなければなりません。地域福祉を進めていこうと思ったとき、行政に頼りっぱなしではなくて、人々の参加が重要であるという話です。ところがその参加が、楽しくなかったらやっぱり次行こうとは思えません。意義だけで動く人は人口の1割よりも少ないと思うのです。動ける人はとても大事です。でも、専門家がやってほしいと思っていることと、住民が楽しくてやりたいと思っていることはどこかでずれていることがあります。このずれを一致させるためには、クリエイティブなアイデアが求められます。

でもボランティアする人は 多くない

忙しいといってもみんな買い物に行くし、おしゃれなカフェができれば行きますよね。僕らもワークショップをするときはどこでやるか、場所を意識しています。私たちは、ボランティアをしようという気持ちにならない人を意識しがちですが、問い掛けの仕方に問題があるのではないのでしょうか。そこにいきたいと思えるかどうかのきっかけのデザインが大事だと思います。そこにおいしいケーキがあるかどうかです。

物を買ったりすることだけが 楽しさですか

楽しさとは何か。ショッピングセンターに行って、物を買うことが楽しいことですか。それは誰かに楽しませてもらっていることであって、自分自身が楽しさを生み出しているわけではありません。自分自身で楽しさを生み出す技術を手にすることは、人生、生き方にとってもすごく大事なことです。その技術を手に入れた人の人生は、絶対にずっと楽しいはずですから。どこに居たってどんな状況だって楽しさを生み出すことができる、その技術をどう手に入れるかです。落ち葉掃除が必要な時、いかに楽しく落ち葉を掃いていくかということ、何通りにも思いつくことができる人というのは、落ち葉を掃くということだけでも楽しくできます。多分その人は皿洗いも楽しくできるし、何でも楽しくなりますね。自ら主体的に楽しむということです。これが誰かの役に立っていると、ありがとうと感謝され、感謝されるとますます楽しくなります。そういう楽しさを生み出して、それを増幅させていくような技術をぜひとも手に入れてほしいと思います。



山崎亮(やまざきりょう)さん
プロフィール

1973年愛知県生まれ。Studio-L代表、東北芸術工科大学教授、慶応義塾大学特別招聘教授。地域が抱える課題を、そこに住む人が解決するためのコミュニティデザインに携わる。全国各地のまちづくりにおけるワークショップ、住民参加型の総合計画づくりに関するプロジェクトに参画。

著書に「コミュニティデザイン—人がつながるしくみをつくる—」、「まちの幸福論—コミュニティデザインから考える—」などがある。



北海道沼田町つながる塾で
住民参加のワークショップ



福島県はじまりの美術館で
ガーデニングキャンプ



ふれあいサロン
ココ・神田
田村友治さん

月2回、高齢者対象の
傾聴サロン活動を行
っています。



ふれあいクラブ
山本尚子さん

高齢者対象の
会食活動を
行っています。

ボランティア座談会

We♥CHIYODA.



カルビー株式会社
社会貢献委員会 委員長
二宮かおるさん

ちよだ企業ボラン
ティア
連絡会の会員企業
です。



四番町町会長
杉田宗一さん

住民の地域参加のきっかけを
図っています。学校の運動会には
必ず顔を出しています。



明治大学
ボランティアセンター
Tree学生スタッフ
細田来夢さん

神保町でのまちの
イベント運営など、
地域の様々な活動に
参加しています。



車いす体験アドバイザー
「いっぽ」
湯澤則子さん

学校での
車いす体験講座や、
アドバイザー養成講座を
行っています。

ボランティアで千代田区の魅力を再発見！ まちの魅力は自分たちでつくろう！

千代田区では、昔から住んでいる方、新しく引っ越してきた方、在勤・在学の方など、幅広い層の方がボランティア活動に参加されています。実際に活動している6名と、ボランティア活動との出会いややりがい、まちの魅力を談笑しました。



ボランティアへの一歩、どんな きっかけがありましたか？

田村さん

ボランティアセンター主催の傾聴ボランティア講座の受講後、修了生たちでボランティアグループを結成しました。ボランティアは楽しいのだからと思っていましたが、代表にもなったため、最初は若干面倒くさくて…。でも活動していく中で交流が生まれ、気持ちも変わってきました。活動のたびに「ありがとう」という言葉や、笑顔をもらえます。自分が楽しいからこそ、活動を続けているのだと思います。

山本さん

マンションに住んでいるとご近所の方とのつながりが本当にないので、地域の情報というのが入ってきません。子どもが幼稚園に入ったころ、時間に余裕ができたため、主人の母が活動していた高齢者の会食ボランティアと一緒に参加させてもらいました。ボランティアは40～

80代と幅広く、いろいろと地域の情報を教えていただき、それがとても役に立っています。交友関係も広がり、また料理の勉強にもなります。食事とお話を楽しみ、直接「おいしかった」と笑顔で言ってくれただけで励みにもなります。月1回なので、友達2～3人にも声をかけたところ、気軽に参加してくれました。みなさん、関心はあるけど、どうしようかしらと迷っているのですね。

細田さん

僕は、先輩からの紹介でした。神保町のすずらん祭りやブックフェスティバルのお手伝い、ペットボトルキャップ回収など、様々な活動の写真を見たり、話を聞いたりし、単純におもしろそうだなと思いました。最初は好奇心、チャレンジ精神が強かったです。去年は約30人だったメンバーが、今年は約50人に増えました。「ボランティアやってるぜ！」と意気込んでいるわけではありません。最初は気軽な気持ちから入る人が多く、そういう活動場所がある

ことが大切だと感じます。

二宮さん

会社の創業精神には「人助け」がありますが、具体的に社員ひとりひとりが社会貢献・ボランティアに関心を持つような風土になっていなかったことから、2009年から取り組みが始まりました。本社では年数回清掃をしています。同じビルにある企業と一緒に活動しています。また、ちよだ企業ボランティア連絡会の活動として、区内施設でのサンタクロースボランティアや福祉まつりなど、地域と関わる活動にも参加しています。従業員たちは、最初は負担だなと感じていたのではないかと思います。活動を続けることで、ゴミ拾いで気持ちもすっきりしますし、活動を通じた交流も生まれています。地域社会の一員になる大切な機会になっています。

湯澤さん

私は元々、区内在勤者でした。ボランティアセンターで開催した車いすの講座を知った時、両親も高齢に

なるし、勉強したいなと思いました。講座終了後、「教わっただけじゃもったいないよね、何かみんなの手助けが出来たらいいよね」ということでグループを立ち上げました。養成講座開催ごとに新規メンバーを迎え、今年で12年目になります。学校で体験講座を行うと、子どもたちの車いすに対する考え方が変わり、身近に感じてもらえるようになります。



杉田さん
四番町町会の町会長と町会に福祉部がありますので福祉部長を兼務しています。町内がマンションばかりになり、ご近所とのつながりが薄れています。町会福祉部の活動のヒントになればと思い、昨年ちよだボランティアセンターが主催したチャリティウォーキングに参加しました。そのきっかけは、やはり「楽しそう」だと感じたことです。

ボランティア活動で人とつながるために



細田さん
私たちは湯澤さんの車いす体験アドバイザーの活動にも参加しています。また、毎年行っているボランティアイベントでは、商店街の方から抽選機をお借りしています。活動をきっかけに、全然知らなかった地域や人を知ることができたのは大きな財産だと思います。活動をすればするほど、自分だけの力だけではなく、地域や大学の仲間とのつながりやみんなの力を合わせることが必要になります。ボランティア活動で、自分の価値観、世界が広がることを感じます。



湯澤さん
ボランティア活動を通して、障がい者の音楽コンサートを行う団体や、障がい者スポーツの活動などとの関わりができてきました。人間関係にも広がりができました。家にいるよりボランティア活動の方が、確

実に視野は広がっているのです。私自身とても勉強させてもらっています。



山本さん
ボランティア活動で新しい人間関係を作るのが気分転換になります。以前よりも子どもの手が離れたため、さらに時間に余裕ができました。他に何かできることはないかと思い、千代田区ファミリー・サポート・センターの支援会員にも登録しました。自分のできる範囲でやっというこうと考えています。



田村さん
ひとり暮らしの高齢者も多くいらっしゃると思います。できたらその方たちに地域に出てきてもらえるよう働きかけたいです。交流してもらうことでその方も元気になりますし、ボランティアの我々も力をもらいます。企業も本当に多方面で活躍できると思います。活動している側も、参加している側も楽しく参加し、ここでのつながりを大切にしていきたいです。

「千代田区」のまちの魅力とは？



二宮さん
千代田区は、まちに歴史があるところがいいですね。それに、山本さんの活動している会食の活動は、食を通じたつながりができて良いですね。車がなくても歩いて行かれる、交通の便が良いのも千代田区の魅力です。



細田さん
千代田区は大学が多いまちです。活動を通して大学周辺のお店とも関係ができました。おいしい店がたくさんあるところにも魅力を感じます。



湯澤さん
麹町に勤めていたので愛着がありますが、麹町には多くの文化人が住んでいたため、歴史の宝庫であるこ

とも千代田区の魅力のひとつです。



杉田さん
私は昔から千代田区に住んでいますが、まちの魅力というのは、歴史、文化、伝統よりも自分たちでまちの魅力をつくっていくことが大事だと思います。今、昔からの住民がほとんどいなくなり、新しいマンションがどんどん増えています。そこには厳重なオートロックがあり、ご近所との交流がほとんどありません。なんとか地域になじんでいただき、一緒に地域を盛り上げていきたいです。町会の防災マップを作成した時は、町内にある専門学校の学生や町会員で出版社に勤める方など、地域に住む様々な立場の方が協力してくださったので、とてもいいものができました。堅苦しくないご近所付き合いができるようにしていきたいです。



湯澤さん
そう考えると、千代田区は人材も豊富ですね。



田村さん
住んでいるとまちの魅力がわかりづらいですが、確かに千代田区は人も企業もたくさんそろっています。ぜひこうした方々に協力してもらって、新たなつながりをつくりたいですね。

ボランティア活動への一歩を踏み出すために



田村さん
ボランティアの良さって、自分の幸せと誰にでもできる点だと思います。楽しいと思う気持ちは他人が与えられるものではなく、自分で探すものです。そのきっかけとしてボランティアをしてみれば、自分も楽しい上に、相手にも喜んでくれます。



山本さん
新しい人間関係ができるのがボ

ランティア活動の良さです。まずは気軽にはじめてみてください、ということと、ぜひ若い人に入っていたきたいです。



細田さん
ボランティア活動で全然知らなかったまちの魅力、地域の人々の魅力を知ることができました。大学の仲間、地域の人たちとのつながりができていくにつれ、大学のある地域のためにもっと何かしたいと思えるようになります。



二宮さん
ボランティア活動は自分自身のことだと思います。いつ災害や病気で誰かの助けを借りる時が来るかわからない中で、助け合う気持ちをいつも持っていたいです。参加した社員は色々な方と知り合え、また参加したいと必ず言います。簡単に一歩

を踏み出せるボランティア活動のメニューを工夫し、社員が参加できる機会を増やしたいです。



湯澤さん
普通の人生では出会えない人と会えるのがボランティア活動の良さです。色々な人と出会い、常に学び、充実した人生にしたいと思っています。



杉田さん
地域では様々な方が色々なボランティア活動に参加していることを知りました。みなさんが活動されているふれあいクラブやふれあいサロンとも協力しあって、千代田区に住む人たちにまだ地域との関わりがない方々に地域に出てきてもらうきっかけをつくっていききたいです。

お互いの活動でコラボすれば、新しいことが生まれ、新しい出会いや交流ももっと広がりますね。



座談会にご参加いただきありがとうございました！

ボランティア・インフォメーション

参加しなければじまらない！ボランティアの一歩を踏み出そう！



ふれあいサロンで参加者を笑顔にする企画募集！

特技や専門を活かし、サロン参加者が楽しめるプログラムをしていただける方をお待ちしています。楽器演奏、食育講座、落語など、特技を活かした活動も大歓迎です。

●ふれあいサロンココ
日時：毎月第2水曜日14:00～15:30
(うち最大1時間程度)
場所：ちよだボランティアセンター
サロンスペース
(千代田区西神田1-3-4西神田庁舎3階)

●ふれあいサロン神田
日時：毎月第3火曜日14:00～15:00
(うち、最大30分程度)
会場：緑茶カフェ茶空楽
(千代田区神田司町2-2
グランドセントラルホテル1F)

共通問合せ先：千代田区社会福祉協議会 ☎03-5282-3711 (月～金の8時30分～17時)
FAX:03-5282-3718 Mail:chiiki@chiyoda-cosw.or.jp



学生のチカラを地域に！

ボランティアを受け入れたい地域・団体がありましたら、ご相談ください。一緒に、地域を盛り上げていきたいです！

問合せ先：
明治大学駿河台ボランティアセンター
☎03-3296-4221 (月～金の9～17時)
Mail:tree.meiji@gmail.com



ふれあいクラブでお食事作り！

区内在住の高齢者を対象とした食事会で、一緒に温かい手作りの昼食を作りませんか？食事とお話を楽しみましょう。年間を通じて活動していただける方、歓迎です！※交通費と昼食あり

日時：月1回程度9:00～14:00頃まで
場所：区内6か所(麹町、富士見、神保町、万世橋、神田公園、和泉橋)
問合せ先：千代田区立高齢者センター ☎03-3265-3981 (第2・4・5日曜と祝日を除く9時～17時)
FAX:03-3265-3980 Mail:ckcenter@quartz.ocn.ne.jp



車いす体験アドバイザー養成講座【予告】

年2回(夏・冬)、養成講座を行っています。詳細が決まり次第、ちよだボランティアセンターのホームページ、情報誌などで告知します。ぜひご参加ください。

図解！データで見る千代田区とボランティア

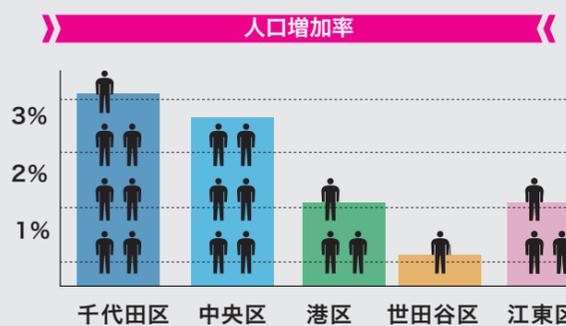


千代田区について、皆さんどのようなイメージをお持ちでしょうか？
ここでは千代田区のデータをもとに、地域で活動されているボランティアの方々の実態を踏まえて、千代田区の地域活動を紐解いていきます。

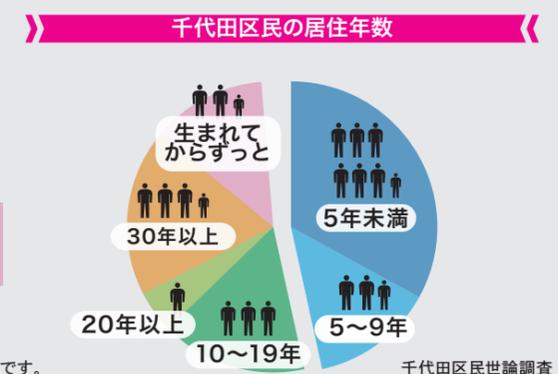
人口の増加率ナンバー1

23 区で人口が最も少ない千代田区。しかし人口の増加率は第1位です。このペースで増加すると、2025年には人口のピークを迎えるという統計も！

居住年数(千代田区世論調査)の内訳では、9年までの短期居住者が半数近くを占め、平成24年以降増加傾向にあります。どのような背景があるのでしょうか？



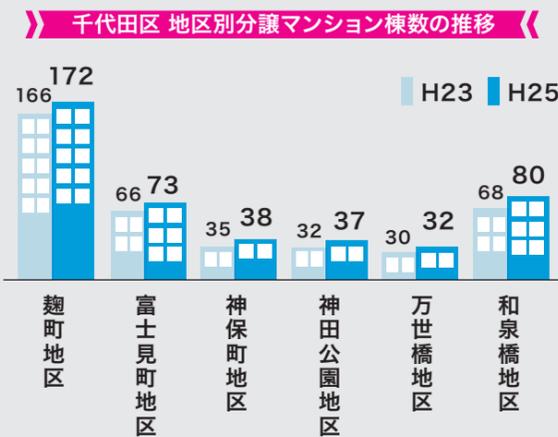
平成25年から平成26年の人口増加率(東京都総務局統計部調べ)を示したものです。



千代田区民世論調査(平成27年1月)より

分譲マンションが増加

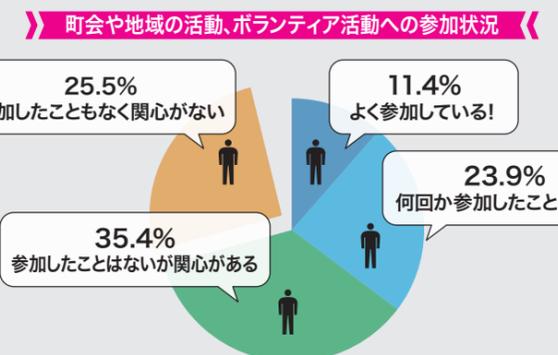
地区別分譲マンション棟数の推移(公益財団法人まちみらい千代田調べ)を見ていくと、いずれの地域においても分譲マンションの棟数が増えています。統計からも、区内のいたるところで分譲マンションの開発が行われていることがわかります。新しい住宅が増え、区外から人が入ってきて人口が増えています。なるほど、千代田区の人口が増えている理由もわかってきました。



地域活動への参加状況

千代田区民世論調査では、町会や地域の活動、ボランティア活動に「参加したことがある」または「関心がある」は、合わせて70.7%という結果になっています。

これを町会加入者でみると78.3%、町会未加入者でみると54.8%となっており、町会未加入者の方も5割以上の方が参加や関心を示していることがわかります。

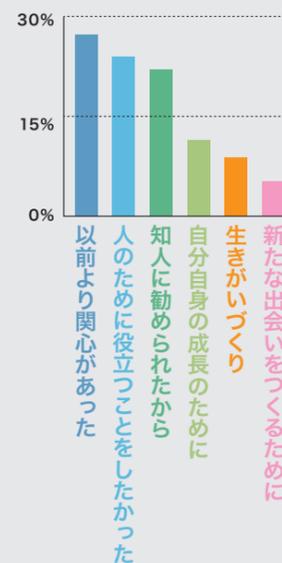


ボランティアの活動状況

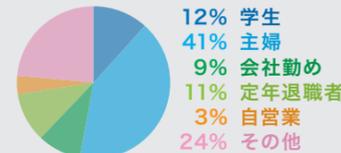
区内在住の主婦、定年退職をした方、区内在学の学生が、ボランティア活動を多くしている傾向にあります。さらに80歳で活動をしている方や、活動歴20年というベテランもいました。

今回のアンケート結果では、毎週あるいは毎月1回はボランティア活動という方が多く、活動歴も2~10年で、無理のない程度に、関心ある分野で活動を続けていることがわかりました。また高齢者の見守り活動や地域のふれあいの場づくりといった福祉分野、次いで清掃など環境分野での活動など、身近なボランティア活動に参加されている方も目立ちました。興味や特技を活かした分野から始めることが、ボランティア活動に継続的に携わるきっかけになることが少なくありません。

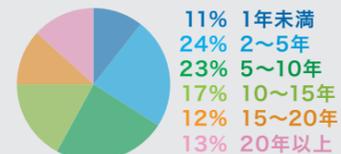
ボランティアのきっかけ



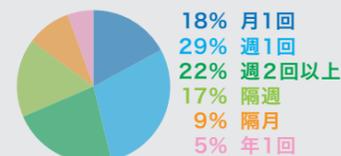
ボランティアの職業



ボランティアはどのくらい?



ボランティアの活動頻度



区内で活動するボランティアのアンケート調査(有効回答数76名)

ボランティアの声

ボランティアを通して、「新しい出会いがあった」と回答された方がたくさんいらっしゃいました。

中には「小学校の先輩に再会できた。」(70代の方)といった方も。他にもこんな声が届いています。

昔培った特技を活かしてボランティア活動がされている姿が、ボランティアをしている立場から見ても、イキイキとして素晴らしい。

高齢者の方への配食ボランティアで「おいしかった」、「ありがとう」と言われると励みになる。

ボランティア活動を通して知り合った人に、まちであいさつをうけるようになった。

東日本大震災で東京に避難してきた方から「東京の人がこんなに支援してくれるとは思っていなかった」と涙ながらに話されたことが印象に残っている。

まとめ

人の役に立つために始めたボランティア活動が、自分自身の成長になった、という回答が目立ちます。また、新しい人との出会いや、過去の繋がりを改めて紡いだ方も多く、そういった喜びを得られることもボランティア活動の醍醐味です。

人口約57,000人ほどの千代田区ですが、区民と企業の社員や学生とが、地域に関わる活動を通し、交流することで、多様な関係が生まれています。人間関係が希薄な時代ですが、都心の真ん中でも出

会いがあったり、地域に溶け込み、そのつながりで地域の課題を解決したり、助け合うこともできます。

人口が増加していく中で、新しく移り住んできた人がどのように地域や町会と関わっていくかが、未来の地域活動の発展に大きく関わっていきます。

ちよだボランティアセンターは、地域のために活動している、これから活動しようとする方に寄り添い、サポートしていきます!

ボランティアの力。

ボランティアでつながる。千代田が好きになる。

麴 町にある「いきいきプラザ一番町」で、共立女子大学フラダンスサークルの皆さんがフラダンスを披露！—いきいきプラザ一番町は、高齢者向けサービスの複合施設であると同時に、交流スペースやギャラリー、ホールなどを備えた地域の拠点。元気いっぱい踊る学生たちに、施設の利用者である高齢者はもちろん、地域の住民や関係者、通りがかった職員は思わず足を止め、笑顔でその姿に見入っていました。



一番町特別養護老人ホーム職員
大岡誠二さんに聞きました。

一番町特別養護老人ホーム職員。ボランティア担当者歴10年。「利用者様、ボランティアの皆様笑顔を見ることを仕事のやりがい日々頑張っています！」



共立女子大学フラダンスサークル
の皆さんに聞きました。

メンバーは現在45名。毎週2回、月曜日と木曜日が練習日。日頃の主な活動は、大学内の行事への参加や、月に1~2回都内や近県で行われているイベントへの出演等。

Q. いきいきプラザ一番町には普段から様々な人が出入りしていて、地域の拠点になっていると感じます。

お子さんからお年寄りまで、来るたびに「また来たい」と思っていたかのように、地域の拠点として、活動の枠・関わりを広げることに取り組んでいます。千代田区の皆様、どなたでもご利用いただくことができる施設です。

Q. どんな方がボランティアとして活動していますか？

区内の学生さん、千代田区にお住いの方、高齢の方と様々です。活動内容も、クラブ活動補助、交流会、お茶会、食事介助補助、入浴介助補助、シーツ交換、コンサート誘導など幅広い活動があります。

Q. 千代田区の皆さんに、メッセージをお願いします！

ボランティアの皆様「活動したい!」という「想い」を大切にしながら、具体的な活動の形にできるようコーディネートしています。地域の方が身近な場所でボランティア活動することは、新しい気づきや発見につながることも多く、人とのつながりを広げる意味でもとても素晴らしいと思います。

ボランティア活動を通して、地域とつながろう！ ボランティアでしか味わえない気づきや出会いの一步を、ちよだボランティアセンターは応援しています!!

Q. 素晴らしい演技でした！いかがでしたか？

「どんな反応が返ってくるかな・・・？」と不安もありましたが、観てくださった高齢者の方や、地域の方が笑顔で手拍子をしてくれて、とても嬉しかったです。

イベントや大会とは違い、「観てくださる方々と一緒に楽しむことができる」という魅力がボランティア活動にはあると思います。千代田区に通っている大学生として、千代田区の施設でボランティア活動を行い、地域の方々と交流が出来ればと考え、今回活動させていただくことになりました。来てよかったなと思いました。

Q. 活動する上での想いがあれば、教えてください。

普段は大学に通っているだけですが、こうしてフラダンスのボランティアを通じて地域のみなさんとのつながりを持てるのがとても嬉しいです。この場所で活動の場を広げ、千代田区と私たちフラダンスサークルの結びつきが強くなればと考えています。これからも活動を通じて地域を盛り上げていきたい!皆さんも私たちの踊りとハワイの陽気な音楽と共に、フラダンスを一緒に楽しみましょう!

楽しく歩き!まちと人を知る チャリティウォーキング!

まちを歩けば、まちが好きになる!
「チャリティーウォーキング」に参加してみませんか?

❗ 家族で!仲間と!一人でも!チャリティだから楽しめる!
参加費はすべて区内のNPO等に寄付されるから、楽しみながらボランティア!



❗ 知らなかった!まちの魅力がこんなところに!!
パワースポットや、秘かな名所をご案内。
地域がもっと好きになる、地域の情報をお伝えます!



❗ 地域のなかで、人とつながるって楽しい!!
参加者同士はもちろん、地域の方とも顔見知りになれるかも。
最近引っ越して来た方や、お一人での参加も大歓迎です!



僕たち法政大学ACIプロジェクトが、みなさんのまち歩きをアテンドします!



法政大学ACIプロジェクト

ボランティアを通じて法政大学の学生と飯田橋の地域住民の方達との交流を深め、地域活性化に貢献することを目的として設立されたまちづくりサークル。定期的に地域の行事に参加し、まちの魅力を内外に伝えるなど精力的に活動中。

ちよだボランティアセンター

〒101-0065 千代田区西神田1-3-4 西神田庁舎4階
TEL:03-5282-3716/FAX:03-5282-3718
E-mail:volunteer@chiyoda-cosw.or.jp

参加をご希望の方は、
ちよだボランティアセンターへご連絡ください。
次回の予定をご案内します!
みなさんのご参加を、心よりお待ちしております!

最新情報をお届け!メルマガ「千代田でつなメール」がおすすめ。登録無料。ホームページからどうぞ!

www.chiyoda-vc.com



ボランティアの参加申し込みや、活動先に連絡する時に使ってみよう!

ボランティア♥スタート・シート

■ 活動先: _____

■ 担当者名: _____

■ 連絡先: _____

■ 活動日時: 平成 ____ 年 ____ 月 ____ 日

■ 持ち物: _____

■ ボランティア保険: 未加入 加入済

■ MEMO _____

ボランティア保険(300円~)の加入は「ちよだボランティアセンター」まで。

楽しそう、やりがいを感じる!など、あなたの希望に合えば、ぜひ申込みを!

ボラセン職員の思い♡



こんにちは!ちよだボランティアセンターの伊藤です。
ボランティア情報誌をご覧いただきありがとうございます。
今日もボランティアセンターには、窓口や電話、メールで“ボランティア”の相談が来ています。
ボランティアの相談に来る方の動機は様々です。
そこで今回は、私のボランティアを始めたきっかけ、気持ちをお話します。
(最後までお付き合いくださいね♪)

ボランティアとはほとんど縁がなかった大学生の私。中学生の頃に何回かボランティアしたことはありましたが、どこか優等生のような雰囲気苦手、ボランティアに自分から手を挙げることは全くありませんでした。入学してすぐ、今までの部活と同じスポーツ系のサークルに入りたいと思い、勧誘のチラシを見ていたところ、友達から「ボランティアのサークルを見てみない?」とお誘いがありました。正直興味ないなあ、と思いながら、まだ出会ったばかりの友達に断りづらく、しぶしぶ一緒に見学に行くことに。

見に行ったのは身体障がい者と交流するサークル。定例会はみんなで夕食を取りながら進めていて、席も自由でとてもよい雰囲気。「バイトは何してるの?」「○○ゼミはレポート多いよ。」等と先輩たちと雑談しながら、しつこく勧誘されることなく、まずはお試しで活動することになりました。その日は車いすサッカーが趣味の障がい者の方とサッカーの練習をしました。初めて見る車いすサッカーに興味したのと、先輩や障がい者の方と話しているととても楽しくて、すぐに加入を決めました。

その後も障がい者と学生が隔てなく、映画を見たり、ディズニーランドに行ったり、毎年夏には旅行にも行きました。何より魅力的だったのが、活動の後には必ずメンバーでご飯に行くこと、活動以外



当時の活動の様子。
障がい者の方たちと学生とでピクニック。

で花見、合宿、スノボなど楽しめるイベントがたくさんあったこと。こんなに楽しく出来るボランティアは初めてで、みんなと一緒にいたいと思うようになりすっかり自分の居場所になっていました。

自己満足と言われればそれまでですが、自分たちで価値を見出し、それぞれが学び、活動することで少しでも喜んでくれる方がいれば立派な“ボランティア”になります。気が付けば、福祉分野の職場を探していて、今の仕事に就いていました。始める理由は何でもいいです。やってみることで一つでも発見できることがあるなら。きっとどこか居心地のいい活動場所が見つかるはずですよ。

こんなふうに私のボランティアが始まり、今があります。共感していただけますか?もしよろしければあなたに合う活動を探すお手伝いをさせてください。



日頃職員が思っていること、皆さんに伝えたいことをブログにして毎週更新!「ホームページを見て連絡しました。」「ブログに載ってた方ですね!」という声が、職員の励みになっています。いろいろな職員がいるちよだボランティアセンター。今この情報誌をご覧の方もぜひ一度ご相談ください!

ボラセンスタッフ日記「ブログ」
<http://www.chiyoda-vc.com/vlog>



はつらっ・あいともだち

Volunteer
ボランティア 特別号 2015 【発行日】2015年3月31日

【発行】社会福祉法人 千代田区社会福祉協議会 **ちよだボランティアセンター**

〒101-0065 東京都千代田区西神田1-3-4 西神田庁舎4階 【開室時間】月曜日～土曜日(祝日を除く)9:00～19:00

TEL 03-5282-3716 FAX 03-5282-3718 <http://www.chiyoda-vc.com>

ちよだボラセン 検索